

経済・社会・環境の課題を統合的に解決することで実現する「持続可能な」社会。それを目指したSDGsは、いまや地域のまちづくりにおいても重要なキーワードになっています。そんな中、ぎふ清流文化プラザ（岐阜市学園町）で9月14日、「清流の国ぎふ」SDGs推進フォーラムが開催されました。

今年7月、岐阜県が「SDGs未来都市」に

地方の成長や発展から、日本の活力向上を目指して掲げられた「地方創生」。そこには、私たちが安心して暮らせる「持続可能なまちづくり」と「地域活性化」が欠かせません。そこで注目されているのが、産業や環境、医療福祉、教育など、多様な領域から「誰一人として取り残さない」持続可能な未来を目指すSDGs。今、SDGsの視点を採用した取り組みを通じて、地方の課題解決を進める自治体が増えています。



地域の特性を活かしたSDGsモデルを

2018年6月より、自治体によるSDGs達成に向けた取り組みの先進的なモデルとなる都市を「SDGs未来都市」として選定。2020年度は計33の都市・地域が選定された。中でも特に先導的な取り組みを「自治体SDGsモデル事業」に選定し、取り組み支援や成功事例の情報発信を行っている。

SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業

今回、さらに取り組みの広がりを目指して開催されたフォーラムで、古田肇岐阜県知事は「コロナ禍で新たな社会の在り方が求められる今こそ、SDGsを原動力に、持続可能な清流の国ぎふを築く取り組みを深化させていきたい」と意欲を語りました。

そうした動きを後押しするため、国も2018年からSDGs達成に向けて優れた取り組みをする自治体を「SDGs未来都市」として選定。岐阜県も2020年度のSDGs未来都市に選定されました。県では、「オール岐阜」でSDGsの取り組みを加速させるため、今年4月に県内の企業や団体などの連携を図る「清流の国ぎふ」SDGs推進

同フォーラムでは、造園家で岐阜県立森林文化アカデミーの学長も務める涌井史郎氏による基調講演も行われ、涌井氏は「豊かな自然とそれを活かす産業や文化が根付く岐阜県は、その土地ならではの「ローカルSDGs」を実現するモデルと成り得る。そのために、かしい消費を行う県民、環境への配慮や社会的責任、企業統治を意識したESG経営を行う企業、そして取り組みをコーディネートする行政の連携が大切」と、岐阜だからこそできるSDGsの推進を提言しました。その後のトークセッション

では、県内各地でローカルSDGs実践に取り組み企業や自治体それぞれが紹介しました。

岐阜だからこそ実現できる ローカルSDGsを

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



OKB 大垣共立銀行

社会保険労務士 加藤一正事務所

岐阜県 J A グループ

岐阜信用金庫

株式会社 三光堂

私たちは持続可能な開発目標SDGsを支援しています。

※50音順

プロジェクト特設サイトオープン

最新事例を紹介

支援している企業の
取り組み情報や活動事例の
紹介はこちらから



取り組み企業、事例についてお寄せください。

SDGs岐阜推進プロジェクト事務局
中日アド企画 岐阜支社内
岐阜市柳ヶ瀬通1-12 岐阜中日ビル7階
TEL.058-265-6281